



天空から水際へ… 有明浜の豊かな表情

美しい砂浜と松林、どこまでも青く広がる燧灘。西の海辺のビュースポット・有明浜を中心に、観音寺の海岸をたどってみました。



銭形砂絵



道の駅とよはま付近

里海
トピックス

貴重な生態系の魅力を伝えたい

香川の水辺を考える会
代表 吉田 一代さん

海浜植物の宝庫として知られる有明浜。趣味の観察からスタートし、浜の生態系研究の第一人者となった吉田さんは、現在も有明浜を拠点に全国の海岸植物の調査に東奔西走しています。「自然の優れた風景と、干潟の豊かな生態系を併せ持つ有明浜の環境は、全国的にも貴重なんです。水がきれいで生き物がたくさんいる、美しい里海のお手本とも言えますね」。



観音寺小学校の校章になったハマゴウ

調査結果を広く共有・発信したいと、地域の学校と連携して子どもたちに有明浜の魅力を伝える授業も実施。年1～2回の観察会「香川自然博物館」も人気です。「子どもたちや地域の皆さんを通じて、浜辺の豊かさへの理解が広がっている手応えを感じています。大切なのは100年先を見据えて今何をするかということ」と吉田さん。「原動力は『好き』という気持ち」という穏やかな笑顔には、30年来の観察・調査が支える有明浜への深い思いがにじんでいました。



吉田さん

エリア 観音寺市



豊市と観音寺市の境界近く、稲積山の麓にある高屋神社から、山頂の本殿へと続く長い登山道。歩きやすい舗装道路が終わると本格的な山道が始まり、標高約404mの山頂まで、やや勾配のきつい上り坂が続きます。

汗をかきながら登ること30分、やがて行く手に本殿の石段が見えてきました。頭上の木々が切れて明るい日差しに照らされ、下から見上げると、青空に向かって吸い込まれていくような石段の一番上に鳥居が立っているのが見えます。

この石段の中ほどが、実はなかなかの海景色スポット。振り返れば、観音寺市街地から燧灘、晴れた日は愛媛県まで見渡せる、奥行きのある風景が広がります（上写真）。海際に白い帯のようにのびるのは、有明浜。次は浜を指して、一気に下って行きましょう。

観音寺市のシンボル・銭形砂絵のある有明浜は、白砂青松の自然美とともに、生態系の豊かさでも知られています。

とときです。

さて、ここからは国道11号に出て、さらに西へと海沿いをドライブ。道すがら海を見ることはできませんが、愛媛県との県境近くの「道の駅とよはま」は、香川県最西端の海景色スポットと言えるでしょう。まっすぐのびる燧灘の水平線、海岸線沿いにかすむ観音寺市街地、岸壁には釣り人の姿もちらほら。「夕陽の道の駅」の文字とともに日の入り時刻を示すパネルがあり、夕暮れ時の眺めも楽しめそうです。山の上から波打ち際まで、さまざまな表情を見せてくれる観音寺の海を、たっぷり楽しんだ一日になりました。

のドライブウエーを上っていくと、山上展望台の手前に「天狗山山頂」の案内板が。短い石段の先に、元三豊高等女学校校長・石井朝太郎が昭和8年に勅題「朝海」を詠んで入選した歌碑がたざずんでいます。「動くともみえぬ白帆の連なりて あさしづかなり せと乃うち海」。今も昔も変わらぬ瀬戸内海の美しさに、ふと思いをはせるひ



歌碑



有明浜